

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果等について

みだしの調査が、4月17日に実施されました。

現在、各学校で調査結果の分析・検証を進めており、今後、自校の課題を踏まえた指導の改善に一層取り組んでいくところです。

つきましては、多治見市全体の傾向をお知らせしますので、お子さんの学習習慣や生活習慣を見つめ直す際の参考として活用いただきますようお願いいたします。

1 学力調査の結果より

調査を行った教科「国語・数学」の平均正答率について、「国語・数学」共に、国・県の値を上回っています。「理科」については、今年度初めてのCBTによる調査となり、平均正答率ではなく、IRTスコアで結果が提供されました。「理科」についても国・県の値を上回っています。また、各調査結果から今後付けたい力として、以下のことを挙げるができます。

【国語】・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える力をつけること。

・読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える経験や、誤って書かれている漢字を見つけて修正できる力をつけること。

【数学】・素数の学習において、1は素数に含まないことを繰り返し確認し、正しい知識を身に付けること。

・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力をつけること。

【理科】・考察をより確かなものにするために適切に実験を計画し、表現する力をつけること。

・科学的な根拠を基に地層の広がりを検討して表現できる力をつけること。

ご家庭では、学校から配付される個人票を参考に、正答数（率）だけでなく、誤答の自己分析から課題を見つけましょう。今後努力することを、お子さん自身が自己決定できるような振り返りとなるようお声がけをお願いします。

2 質問紙調査の結果より

質問紙調査において主なものをまとめると、以下のようなことがいえます。

<学習習慣>

・1日の家庭における学習時間(月～金)2時間以上が、約30%で国を上回っていますが、県との比較では下回っています。

・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる割合は国を上回っていますが、県を下回っています。自分で考え、自分から取り組んでいる児童ほど正答率が高い傾向にあります。

・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる割合は、国を上回り、県と同等です。学習を見直して、次の学習につなげている児童ほど正答率が高い傾向にあります。

<生活習慣>

・朝食を毎日食べている割合が約80%で国や県を上回っています。

・読書が好きな生徒の割合は約30%で国や県と同等です。

<その他>

・自分にはよいところがあると思う割合は、県よりは若干下回っていますが、国とは同等です。

・将来の夢や目標をもっている割合は、国・県を上回っています。

本調査からも、家庭や学校での学習習慣・生活習慣が学力にも大きく関わっていることは明らかであり、『習慣』は、意識して努力を続けることにより必ず改善できます。

家庭と学校が協力し、子どもが望ましい習慣を身に付け、将来の自立や個性豊かな自己実現に向かっていくことができるよう、今後もご理解とご協力をお願いいたします。